船の科学館 海の学びミュージアムサポート Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

大阪市立自然史博物館
特別展「貝に沼る　―日本の貝類学研究 300 年史―」

開催期間：2025 年 2 月 22 日（土）～2025 年 5 月 6 日（火休）

【企画展の内容・目的】

■日本列島は暖流と寒流双方の影響を受ける位置にあり、またたくさんの島嶼を有することから、世界的にも多くの貝類が生息します。日本では古来より多くの人が貝類のとりこになり、学問としてその実態に迫ってきました。この特別展では本草書から初期の図鑑、歴史的な発見をもたらした実物標本、最新の研究技術までを一堂に集め、日本の江戸時代から現代までの貝類学の研究史とその成果を紹介するという内容で構成しました。

■貝類を入口として日本の海の自然環境への関心や理解を深めるため、ギャラリートークや特別展講演会を開催しました。また、貝類や海の自然に好奇心や親しみを持ってもらうことをねらいとして、子どもワークショップを開催しました。

■子どもから大人まで展示を気軽に楽しめるよう、展示を見るポイントを平易なフレーズで伝えるキッズパネルやキッズマップを作成しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

1．企画展示の内容

■開催期間：2025 年２月 22 日（土）～2025 年５月６日（火休）

■開催場所：大阪市立自然史博物館　ネイチャーホール

■入場者数：12,321 人

大阪市立自然史博物館　外観

特別展会場　入口

この特別展は、１：江戸時代の貝類学、２：近代貝類学の幕開け、３：貝類学のすそ野の広がり、４：現代貝類学の最前線、５：キミも沼ろう、の５つの章により構成しました。1～4 章では、江戸時代の本草学における貝類学のおこりから、明治の開国に伴う西洋の近代貝類学の流入とその受容、さらに昭和以降の研究分野の広がりやアマチュア・学校の先生の活躍、そして現代の貝類学でどのような研究が行われているのかを紹介していきます。この歴史の流れを受けて、最後の章で来場者を貝類学の世界に誘い、未来の貝類学者になってほしい、というメッセージで締めくくります。展示は貝類学の歴史のトピックを物語る実物標本・資料（貝類標本約 700 点、その他資料約 200 点）で構成しました。例として１章では木村蒹葭堂貝石標本（大阪府指定有形文化財）や本草の貝書、２章は大正時代の貝類図鑑「貝千種」の原画と版木や明治時代の化石研究黎明期の標本、３章は「原色日本貝類図鑑」に使われた標本や歴代アマチュアのコレクション、４章は沖縄県泡瀬干潟の保全調査標本などです。５章では貝類の研究ができる大学紹介のポスターなどを展示しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

１章　江戸時代の貝類学

江戸時代の日本で行われていた本草学としての貝類学を紹介するとともに、同時期に西洋の生物学者が取り組んでいた日本の貝類の研究を紹介しました。本草書を見ると、日本の本草学が貝類の多様性を的確に把握していたことに驚かされます。また、貝類標本は保存されやすく、江戸時代の収集品でも良好な状態のものがあります。これらの実物資料を見てもらうことで、江戸時代の日本人の海洋生物に対する関心と、その探求レベルの高さを知ってもらいました。一方で、18～19 世紀の西洋の分類学は日本をはるかに凌いでいました。精緻なモノグラフの図版を見てもらうことで、誰の目にもわかるその違いを実感していただきました。このような学問レベルの差はあったものの、本草学での知識の積み重ねは明治期の近代貝類学の受容の下地となり、その後の日本の海洋生物学の発展につながった、ということをこの章で伝えました。

２章　近代貝類学の幕開け

明治の開国以降、日本には西洋から近代科学が流入し、本草学は生物学に大きく転換しました。ここでは貝類学においてその受容に貢献したキーパーソンと、彼らの活動を紹介しました。前半は日本の貝類学のグローバル化と国内普及を目指した平瀬與一郎と平瀬介館、及び平瀬貝類博物館の活動です。平瀬が多色木版画で企画制作した貝類図鑑「貝千種」は、日本の美術工芸と西洋貝類学の融合を意図したもので、当時の時代背景を象徴します。その製作過程がわかる原画や版木を展示し、学問受容と普及の努力を感じてもらうようにしました。後半では帝国大学における貝類学の展開、平瀬介館で奉公したのちに日本の貝類学を支えることになった黒田徳米、台湾や南洋群島といった統治領での貝類学などを実物資料により紹介しました。ここでは日本の近代化という教科書的トピックを、貝類学や海洋生物学の視点からとらえてもらう、ということを意識しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

３章　貝類学のすそ野の広がり

大正から昭和、そして戦後にかけて、貝類学は様々な学問分野に展開し、標本の採集や収集活動は幅広い層に普及します。ここでは水産や公衆衛生における貝類学、図鑑などの出版による学校教育や収集家への普及活動の歴史、アマチュアによる標本収集・調査活動を紹介しました。例えば水産学分野ではカキやホタテ養殖の歴史、イカ・タコの漁具開発史など、できるだけ食材として身近な例をとりあげました。また、アマチュアの網羅的なコレクションの構築や各地の貝類目録の編纂などの例をとりあげ、地域の生物多様性情報の解明に大きく貢献していることを紹介しました。これらから、貝類を含む海洋生物学が私たちにとって身近な学問であること、またプロの研究者でなくともその発展に貢献できる可能性がある、ということを伝えました。

４章　現代貝類学の最前線

ここでは新しい技術を使った現代の貝類学を紹介しました。DNA の塩基配列といった遺伝情報に基づく貝類の系統分類学の手法と成果のほか、新たな課題として貝類のおかれている現状と、それらを保全するための研究活動なども解説しました。肉眼では見えない DNA は物体としてとらえづらいという問題があるため、ここでは塩基配列データを可視化したパネルを作成し、系統関係の推定手法をイメージしやすくするようにしました。海産種に関連するものとしては、沖縄県の泡瀬干潟で保全活動を続ける市民グループが調査の一環として収集した貝類コレクションや、港湾で問題となる外来貝類の移入史などを紹介しました。これにより、日本の沿岸環境をとりまく課題と、その解決に向けた現時点での到達点を知ってもらうことをねらいとしました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

５章　キミも沼ろう

展示を見て日本の貝類学の先人の歩みを知ったみなさんをこの「沼」に誘うべく、ここでは貝類学研究への様々な入口を紹介し、この特別展のまとめとしました。貝類を研究材料として扱う全国 28 の大学・高専の研究室から提供して頂いた研究室紹介ポスターを展示しました。また、60 年前から現代までの小中学生による貝類の自由研究や、博物館で現在行っている市民参加型の大和川水系調査プロジェクトの紹介、身近な入口として大阪のスーパーで売られている変わった貝なども展示しました。

子どもから大人まで、貝類学、ひいては海洋生物学の研究活動にあなたも挑戦してみませんか、というメッセージを伝えました。

【来館者の声】

◯海の奥底に眠る貝について少し興味がわきました。

◯こんなにも貝の種類があることを知ることができて、海はすばらしいと思いました。

◯地球を守るために海の研究をもっと進めてほしい。

◯貝類について押しつけるのではなく、しっかりと興味を持った来館者へ「こんな大学があるぞ、イベントがあるぞ」と最後に伝えていて、沼を感じました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

2．関連事業の内容

■特別展講演会①「進化史と貝類学史の交点：小笠原の陸貝」

【開催日時】2025 年３月９日（日）13：00 ～ 15：00
【開催場所】大阪市立自然史博物館本館　講堂（YouTube による同時配信）
【参加者数】対面 31 人、最大同時接続数 62、再生回数 1812（5 月末まで）
【実施内容・目的】

- ●国内をフィールドとして貝類学の最前線を拓いてきた研究者をお招きして、ご自身の研究と貝の魅力を語って頂く内容として実施しました。
- ●小笠原の陸貝の研究は、ピルスブリー、平瀬ら貝類学の偉大な先達に始まりますが、ギュリックやグールドら歴史に残る進化学者も関心を寄せてきました。世界と日本の交差点でもあるこの小世界にみる進化と、その現況についてお話し頂きました。

進化生物学（人類進化）の命題の一つである偶然説と適応進化の反復説のどちらが正しいのかについて、論争史を交えながらご自身の小笠原のカタマイマイ類の研究を概説し、つまりどちらも正しいのだろうと締めくくり、最後に小笠原の保全活動と課題についてお話し頂きました。海洋島における生物の進化現象の興味深さに触れるきっかけになったと思われます。会場・YouTube 視聴者いずれの質問にも丁寧に答えてくださいました。

【来館者の声】

◯海がなければ、地球の生き物の多様性は存在しなかっただろうことを学んだ。

◯海洋島という海の中に隔離された独特な自然環境を守り、次の世代へ引き継いでいく知恵と工夫を探ってほしいと思いました。

◯ニューギニアヤリガタリクウズムシがカタマイマイなどの貴重な生物を食べていて悲しかった。大切な固有種を守りたいです。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■特別展講演会②「貝類のまぼろしに沼らされて」

【開催日時】2025 年 4 月 20 日（日）13：00 ～ 15：00
【開催場所】大阪市立自然史博物館本館　講堂（YouTube による同時配信）
【参加者数】対面 44 人、最大同時接続数 57、再生回数 1967（5 月末まで）
【実施内容・目的】

- ●国内をフィールドとして貝類学の最前線を拓いてきた研究者をお招きして、ご自身の研究と貝の魅力を語って頂く内容として実施しました。
- ●蜃気楼は蛤が吐くとの伝説の通り、貝類はもともと幽明境定かならぬ幻影に近しい存在です。「幻」を名に冠する稀少種はもちろん、サザエですら人の認知は長くあやふやでした。貝類と幻の関係についてお話し頂きました。

特別展で展示したマボロシリュウグウボタルの打上げ標本の逸話から、多様性とは個性の集合であること、個性を対象とするのが生物分類であること、それゆえに私たちは種に対して「幻」を見ているかもしれず、同定や分類とは人々が抱く幻想との格闘あるいは戯れである、という展開でお話し頂きました。普段、博物館では生物多様性や分類の概念をわかりやすく、単純化して説明しようとしますが、このような生物分類の根源的な問答を提供できたのは有意義な機会だったと思われます。

【来館者の声】

◯貝の研究、同定が海の環境、生物を守ることにつながるのだー！ということを学びました。未来の貝博士と思われる少年と先生の対話（質問）がステキでした。

◯貝は思っていた以上に海の情報を反映しているものだということを学びました。

◯1 種類でもめずらしい貝のからをひろいたくなった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■子どもワークショップ「ミニミニ貝をさがせ」

【開催日時】2025 年２月 22 日（土）、23 日（日祝）、３月８日（土）、９日（日）各日 11：00 ～、13：30～、 15：00

【開催場所】特別展会場

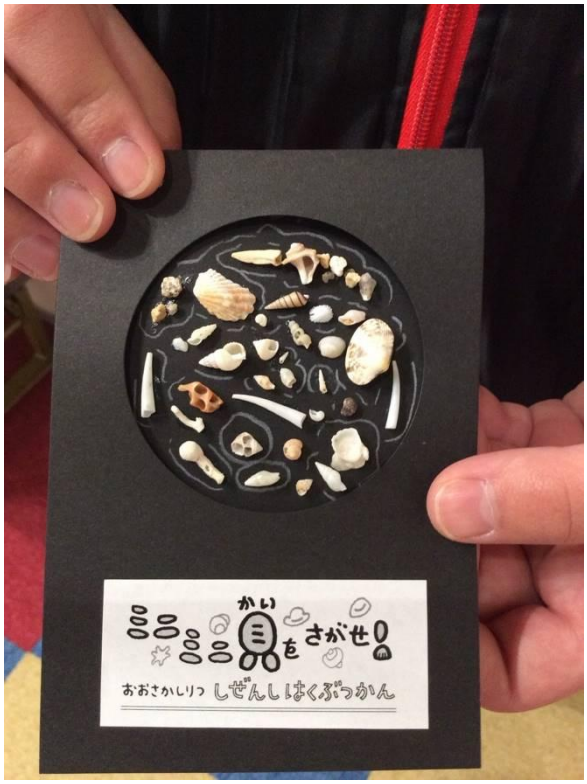
【参加者数】367 人（プログラム参加者 207 人、保護者 160 人）

【実施内容・目的】

●貝の形４種類（カサガイ・マキガイ・ニマイガイ・ツノガイ）のお話しを聞いた後に、ミニミニ貝を砂から探します。見つけたミニミニ貝はボンドを使ってカードに貼り、持ち帰ります。

●このワークショップを通して、貝や砂浜、海に興味をもってもらうことをねらいとしました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



子どもたちは夢中になってミニミニ貝をさがし、保護者も一緒になって真剣に貝を探していました。「巻貝みつけた！」「これも貝？」「ツノガイあった！」など、見つけたこと、気づいたことを教えてくれました。参加者からは「こんな小さな貝がいることを初めて知った」「今度海に行きたい」という声が聞かれ、このワークショップのねらいは達成できたものと思います。
このプログラムは初回から想定を上回る参加者が来られ、当初より定員を増大して対応しました。

【来館者の声】

◯今まで「貝」と一括りに見ていたが、色々な種類があることを知った。今回知ったことを参考に、貝探しに海に出かけたいと思った。

◯私自身が徳島県の産まれで海が近くにある生活をしていたが、大阪で子どもたちにこのような海に関する経験をさせることができて、自然を感じることができたのはよかったと思う。

◯ツノガイと思ったらプラスチックだったりして、海の環境について考えさせられました。

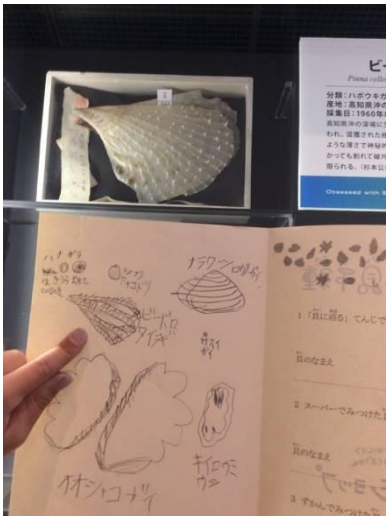
※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■子どもワークショップ「みてみてハカセ わたしの貝千種」

【開催日時】2025 年４月５日（土）、６日（日）、12 日（土）、13 日（日）
各日 10：30 ～、11：30～、14：00～、15：00～
【開催場所】特別展会場
【参加者数】219 人（プログラム参加者 124 人、保護者 95 人）
【実施内容・目的】

- 「貝千種」という昔の貝の図鑑について、誰がどんな思いで作ったのかをハカセ（学芸員）がお話しします。その後、実物の貝千種をじっくり見て、どうやって描いたのか？何種類載っているのか？などを考えます。お話の後、展示でお気に入りの貝を見つけてスケッチし、自分だけの貝千種を作ります。
- このワークショップを通して、貝の研究の歴史、多色木版画の美しさ、貝の多様性に気づいてもらうことをねらいとしました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



参加者の皆さんは貝千種を見ながら、「きれい」「これって（導入で見せたもらったものと）同じ貝？」「この貝がすき」「数字が書いてある」など、気づいたことを教えてくれました。複製の貝千種を広げる場面では、その長さに驚いたり、何種類載っているかを数えて当てたりして楽しんでいました。展示室で絵を描く場面では、たくさんの貝からどれを描こうか、皆さん真剣に考えていました。選んだ理由を聞いてみると「夕焼けみたいだから」「鉛筆の芯みたいでかわいい」など様々でした。模様を細かく描いたり、貝の特徴をメモするなど、じっくりと観察していました。
参加者の子どもたちにはもちろんのこと、大人からの質問や疑問にもハカセが答えました。世代を問わず、展示への理解を促せたと考えています。

【来館者の声】

◯江戸時代から現代まで、貝の研究がどのように紡がれてきたのを学ぶことができました。その時代がつながる中、現代の研究者の方とお会いできる貴重な機会の巡り合わせに感謝しています。

◯昔から貝が身近であったこと、そして愛でられていたことを実感しました。ワークショップの導入が丁寧でわかりやすく楽しかったです。貝千種の版木の保存状態にも感動しました。貝類研究の源流を感じました。この興味愛は今後も続くと確信しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■ギャラリートーク

【開催日時】2025 年２月 22 日（土）、23 日（日祝）、３月 15 日（土）、16 日（日）、22 日（土）、23 日（日）、４月５日（土）、６日（日）各日 12：15 から 30 分程度
【開催場所】特別展会場
【参加者数】のべ 182 人
【実施内容・目的】
●特別展を担当した学芸員による展示解説を行いました。特定のコーナーにしぼり、5～10 分程度で展示解説をします。見落としがちな展示物の紹介や解説パネルに書かれていないエピソード、展示製作の準備段階の話なども交え、展示内容についての理解を助けることを目指しました。

計３名の学芸員により、以下のようなテーマでお話しをしました：2/22：貝塚・遺跡の貝、2/23：研究者の道具、3/15：化学合成群集、3/16：貝塚の貝、3/22：日本住血吸虫症征圧事業、3/23：平瀬與一郎、4/5：木村蒹葭堂、4/6：ドブガイ類の分類学史。
海洋科学に関連する専門分野を持つ学芸員の解説を介在しつつ、疑問点をその場で質問できる機会を設けることで、参加者が海の自然について主体的に学べる機会になったと考えられます。

【来館者の声】

◯今の深海について知るために化石研究からフィードバックを受けるというのが面白かったです（３月 15 日）。

◯ビーチコーマーとしては、先人と価値観の共有が出来ている気分になり嬉しかった（３月 16 日）。

◯カキの養殖は江戸時代から行われていたと知って驚きました。それだけ長い歴史があるのだと感心しました（４月５日）。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

【事業全体のまとめ】

本サポートにより、貝千種の原画・版木を始めとする館外の貴重な資料を借用し、展示物として加えることができました。当館ではアマチュアや研究者の方から寄贈・寄託を受けた貝類に関連する標本や資料を収蔵してはいますが、貝類学史という今回のテーマを展示として構成するには、歴史上のトピックをピースとして埋める様々な資料が必要でした。アンケートの結果からも、研究の発展を時系列で見せるという目的は概ね達成できたものと思います。特に日本で見られる貝類は海産種・水産有用種が多くを占めることから、日本における海洋学研究の歴史の一端の理解にもつながったと考えられます。
来場者アンケートでは、特別展の展示を見た感想に加えて、「貝を探しに海に出かけたくなった」「家族と海の話をしようと思う」「足もとにいろんな発見があるんだと感じ、海に行くのが楽しみになった」といった感想も多数ありました。本展とその関連行事を通じて、海という環境に対してより能動的に関わってもらう働きかけができたと考えています。

３．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
１．美術書出版株式会社芸艸堂 その他出版社	展示資料・図版借用
２．東京大学三崎臨海実験所 その他大学機関	展示資料・図版・動画借用
３．青森県産業技術センター水産総合研究所 その他道府県水産試験場、漁業協同組合	展示資料・図版借用
４．国立科学博物館 その他博物館	展示資料・図版借用
５．品川区教育委員会 その他教育委員会	展示資料・図版借用
６．日本貝類学会　その他学術団体	図版借用
７．環境省小笠原世界遺産センター	展示パネル・図版借用
８．海洋研究開発機構	図版・動画借用
９．大阪市立図書館	出張展示
１０．北海道大学水産学部動物生態学研究室 その他計２８大学・高専の研究室	研究室紹介ポスターの提供

４．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. Tokyo Art Beat	2025 年１月
2. 大阪府 HP	イベント等情報（第45回全国豊かな海づくり大会の機運醸成関連）、2025 年１月
3. 令和６年度 東住吉区生涯学習施設情報誌 １月号	2025 年１月 16 日
4. ABC ラジオ「ドッキリ！ハッキリ！三代澤康司です」	2025 年１月 21 日
5. 関空メールマガジン「KIX は、いま」No.247	2025 年１月
6. いちょう並木２月号	2025 年２月 10 日
7. 令和６年度 東住吉区生涯学習施設情報誌 ２月号	2025 年２月

8. スミセイ Daily ニュース	2025 年２月 17 日
9. 毎日新聞　朝刊	2025 年２月 18 日
10. JR 西日本「おでかけガイド」	2025 年２月
11. 「じゃらん net」観光ガイド	2025 年２月
12. JAVA.jp	2025 年２月
13. 関空メールマガジン「KIX は、いま」No.248	2025 年２月
14. エルマガジン	「500 円でこんなに楽しめる！大阪でユニークな「貝マニア」展示」、2025 年３月１日
15. NHK ラジオ「関西ラジオワイド」	「関西時の人」コーナー、2025 年３月７日
16. 船の科学館公式ブログ	【海の学び】大阪市立自然史博物館の第 55 回特別展「貝に沼る－日本の貝類学研究 300 年史－」は、2025 年５月６日まで開催、2025 年３月７日
17. アイエム	特別展「貝に沼る ―日本の貝類学研究 300 年史―」、2025 年３月８日
18. 令和 6 年度 東住吉区生涯学習施設情報誌 3 月号	2025 年３月
19. いちょう並木 ３月号	2025 年３月 10 日
20. 週刊仏教タイムス	2025 年３月 13 日
21. 毎日新聞　朝刊	地域面(美術館・博物館情報)、2025 年３月 16 日
22. 関空メールマガジン「KIX は、いま」No.249	2025 年３月
23. 産経新聞　朝刊	2025 年３月 21 日
24. MBS ラジオ「かめばかむほど亀井希生です！」	ブラ亀 『特別展「貝に沼る」』、2025 年３月 22 日
25. 「Meets Regional」	「津村記久子の素人展覧会」、2025 年４月１日
26. エルマガジン	「大阪の「博物館グッズ」が異例のヒット、6000 円超えも…なぜ？」、2025 年４月５日
27. いちょう並木４月号	ミュージアムトピックス、2025 年４月 10 日
28. 令和７年度 東住吉区生涯学習施設情報誌 春号	2025 年４月
29. アサ芸ビズ	大阪市立自然史博物館の「貝に沼る展」グッズが爆売れ！話題の風呂敷とは？、2025 年４月 11 日
30. 毎日新聞　朝刊	催し情報、2025 年４月 22 日

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。